(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	訪問診療におけるカテーテル交換処置の実施状況と地域特性との関連
演者名	木村琢磨 1), 吉江悟 2), 川越正平 3), 平原佐斗司 4), 飯島勝矢 5), 山中崇 2)
所属	1) 北里大学総合診療医学, 2) 東京大学在宅医療学拠点, 3) あおぞら診療所, 4) 梶原診療所在宅サポートセンター, 5) 東京大学高齢社会総合研究機構

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

背景

各地域の在宅医療体制整備のあり方は全国一律ではなく、資源の多寡等によって多様な展開が予想される。

目的

地域特性が在宅における医療処置の実施状況にどのように影響するか検討する。

方法

平成 25 年 8~9 月、東京近郊（東京・神奈川・埼玉・千葉）と被災により医療資源の減衰が著しい東北太平洋岸（岩手・宮城）の計 6 都県の医療情報提供ホームページ上の「訪問診療を行う診療所（有効 5,663）」の医師を対象に郵送質問紙調査を実施した。胃瘻、経鼻胃管、気管カニューレ、尿道カテーテル（男性/女性）という 4 種類のカテーテル交換処置の実施有無（尿道カテーテルについては主に実施する職種）と、地域特性に関する 5 変数（人口 10 万人対診療所数/訪問看護ステーション数/病床数、人口密度、65 歳以上人口割合）との関連をクロス集計、 χ^2 検定により検討した。東京大学倫理委員会の承認を得て実施した。

結果

有効回答数（率）は、939（16.6%）であった。胃瘻、気管カニューレの交換は、診療所数の少ない地域において実施割合がより高い関連を示した。また、男性患者の尿道カテーテル交換は、診療所数、訪問看護ステーション数、人口密度、65 歳以上人口割合が少ない/低い地域において看護師による実施割合が高く、女性患者の場合は病床数が少ない地域において同様の関連がみられた。

考察

全体の傾向として、資源が少ない地域において、診療所医師はより高い割合で在宅での交換処置を実施しており、より幅広い層の患者に対応していた。この結果は、翻って資源が相対的に豊富である地域では、医療機関間で一定の分業がなされ、交換処置を実施しない診療所が一定存在することを示唆する。尿道カテーテル交換については、資源の限られる地域では男性患者のカテーテル交換であっても看護師による実施割合が高く、職種間の業務分担が地域により異なることを示していた。